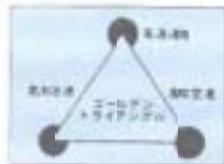




アクションプログラム⑥

自立への挑戦はいま!

間山文化の森公園の整備です。昔から「歴史」と呼ばれて親しまれてきた吾岡山を都市のオアシスとして子供から大人までに愛される公園にしていこうという構想です。今回は、その計画の概要を紹介します。



なんごく・こうち地方拠点都市

吾岡山文化の森公園

人が集い、憩う——
新しい空間づくり

▲香岡山は「鯨山」と呼ばれ親しまれてきた山ですが、『都市型の公園』として再現されるわけですね。高知平野の中で、鯨の形をした古地として別名「鯨山」と呼ばれてきました。ところが前回の空港ジエット化のと



イラストは吾岡山文化の森構想図

き航空法による「空域制限」で山頂がカットされました。

そのとき、「公園化」する約束になっていたのです。

▲今回、再び二千五百㍍に拡張——。というときに約束が守られていますね。

吾岡山は、㈱日本セメントが鉱業権を持つていて石を採掘して、そのあとは市に無償譲渡されたものの境界や地権者の確認などで手間取つてしまふ事態に

▲前回の空港拡張のときの「積み残し事業」と今回の「公園を整備」

▲まず、積み残しの「文化拠点」になっています。

▲次に、交通の拠点性を生かした「文化拠点」になっています。

▲大きな事業ですが、どんな順序で進めますか。

まず、積み残し事業の公園化を早急に取り組みます。そ

のため、用地の買い足しを行ない年次的に進入道路と公園を先行します。

▲新県民文化ホールの誘致については——

地方拠点都市では、広域交

通の要になつている吾岡山に

「グレードの高い二つ目の県

民ホールを」全市町村が推進

してくれました。高知市の追加加入で少し状況が変わつ

きましたが、「高知市はコン

ベンションホール」「南国市

は文化ホール」と位置づけが

されています。市議会や婦人会の県知事要請、文化の森を

育てる会のイベントや署名活動など、「新県民文化ホールを誘致しよう」という市民の

なって「結束の履行」が迫られています。

▲そこで地方拠点都市の指定をバネにして推進しようとしているわけですね。

地方拠点都市は広域的に「職・住・遊・学」のバランスのとれた地域をつくろうという目的です。この中で七ヶ所の「拠点地区」が決められ、

約六郡は多目的広場などで公園化します。中地区は少しかずして市民の文化広場（約一・八㌶）を造成します。西地区は緑の広場（約〇・七㌶）など総面積約九㌶です。多目的運動広場・展望台・東屋——。そして、遊歩道のそばに

広域交通の拠点地

新県民ホール誘致も

拠点都市の事業、さ並行して進めるわけですね。全体の構想はどんなですか。

三地区に分けて、東地区的

文教施設など拠点都市の事業に取り組みます。

北面の民有地は地元の吾岡山

周辺環境整備推進会（構成員

会長）が遊歩道や植栽をして

くれています。

▲一つじなどを千五百本

植えているが、思いもかけない干ばつにあって大変ですね。

雑木林を伐採して、子供たちが樹木の名前などを学習で

（次回は、高知空港の再拡張について、ご紹介します）